

第2回契約監視委員会議事録

日 時 平成22年1月8日(金) 15時~17時15分
場 所 東京連絡事務所会議室
出 席 平井昭光委員長 江戸川泰路委員長代理 辻純一郎委員
廣川孝司委員 魚森昌彦委員
総務部長 契約業務部長 知的財産戦略グループGD 施設業務部長 人事部
次長 他
事務局 監査・コンプライアンス室

1. 新任委員あいさつ

魚森委員より自己紹介及びあいさつがあった。

2. 前回議事録の承認

前回議事録が承認され、委員長、委員長代理の確認サインを求めることとした。

3. 報告書作成スケジュールについて

事務局より文部科学省へ提出する様式の作成スケジュールについて説明があり承認され、スケジュールに合わせ第3回契約監視委員会開催を3月2日(火)15時からとした。

4. 契約全般に係る審議(説明、質疑応答)

各契約担当部署より契約全般に係る説明があり、平成20年度において「競争性のない随意契約」を締結しているが、今後「競争性のある契約」に移行予定であるもの、「競争性のない随意契約」によらざるを得ないものについての説明があった。

また、「一者応札、一者応募の契約」について、今後複数の応札者、応募者となりうる契約方針等についての説明があった。これに対し、委員より質疑があり、各契約担当部署より応答し、必要に応じ点検前に自ら改善することとした内容を修正することとした。

5. 点検結果全般に係る講評前の打合せ内容及び講評の内容

「競争性のない随意契約」で、「競争性のある契約」へ移行予定のあるものについては、なるべく早い時期に移行してもらいたい。例えば平成23年度に移行予定とされているもの、前倒しして平成22年度下期からでも移行できないか検討が必要である。また、移行予定であっても契約内容から企画競争や総合評価落札方式を導入するなどの検討も必要である。

「一者応札、一者応募」となっている契約については、企画競争等に切り替えを検討することや、仕様書を一般的な応募しやすい要件や表現のものにしてハードルを下げるなど、もっと応札、応募しやすい状況にしてもらいたい。特に特殊性のある仕様書で入札する場合は、第三者である有識者の意見を求めるなど真に妥当であるかの確認の必要があるのではないか。

「落札率100%」については、国民目線からして不思議に思われる節もあるので、なるべく回避するような方策を検討いただきたい。

以上